

### 南砺市福野南部地区

## 絆残るのどかな里 ⑧

ドラム缶から作られたスチールドラムが所狭しと並び、華やかな音色がハーモニートンとなって響いている。広安にある第一交易の倉庫を改装した練習場。演奏に打ち込んでいるのはスキヤキ・スティール・オーケストラ(SSO)のメンバーだ。

南砺市で生まれ育ったワールドミュージックの祭典「スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド」のワークショップをきっかけに1995年に結成。以来、数多くのステージに立ち、今年はコロンビアの大衆音楽クンビアの旗手・ペルネットさんのCDにも参加した。

「スキヤキ」生まれの市民楽団の筆頭格であるSSOも、練習場所の確保には苦労していた。発達以来、福野小学校そばの旧児童館を利用してはいたが、福野おひさ



## SSO

# 倉庫が夢の練習場に

ま保育園の建設に伴い、取り壊されることに。昨年4月から1年間の期限付きで旧福野高瀬保育園へ移転した。

今年3月、新たな場所が決まらず焦っていた代表の倉田英路さん



倉庫を改装した練習場を訪れた西能さん(右)から握手で激励される倉田さん—南砺市広安

倉田さんがこれからも活動をけん引していく覚悟を条件に、損得抜きで倉庫を貸すことにした。

倉田さんは1カ月かけて防音工事に取り組んだ。メンバーも掃除や後片付けを手伝い、建材メーカーなどの協力もあって費用を抑えながら満足ゆく練習場が完成した。

4月中旬の引っ越し以来、メンバーはいつでも練習に打ち込めるようになった。毎週金曜の全体練習は午後8時から2時間行われ、ドラムの低音は外部に漏れやすいが、高い防音効果と住民の理

解のおかげで苦情はない。

7月には地元への感謝を込め、福野南部公民館の納涼祭にメンバーが参加。熱い演奏を繰り広げ、住民との一体感を深めた。「ここを拠点に音楽文化を根付かせたい」。そう話す倉田さんはメンバーを増やしてスチールドラムの本場、トリニダード・トバゴを訪れる日を思い描いている。

## 遠望近信

荒木 研悟さん 34

(愛知県豊川市 会社員)



スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールドは海外のアーティストを呼び、地元の人も教わって演奏している。もし地元にはいたなら、スチールドラムもやってみたかった。こちらは車が多く、夜空を見上げて星が見えない。実家に帰ると静かだし、星もきれい。自動車部品の製造に携わっており、仕事はやりがいがある。年に2、3回、車で帰省する。福野に東海北陸自動車道のスマートインターチェンジができると聞いた。移動の時間短縮にもなり、発展につながることを願っている。

(広安出身)

てした

次回は11月13日で、12月17日にも開く予定。岩田部長は「将来的に開催日を増やし、町内の別の場所でも実施したい」と意気込んでいた。

「ふるさと風土記」は、ふるさとをテーマにした、大宮版「ふるさと風土記」を紹介している。活動が苦手な自分でもマイペースでできる」と登山の魅力を語る。定年退職し、今後は沢登りや山スキーを中心に楽しみたいという。